**「読むこと」（説明的文章）学習指導案**

**第1学年国語科学習指導案**

指導者　　三豊市立詫間中学校　　畑　裕貴

**１　単元名**　説得力を生み出す工夫は何だろう～ＡＩと比較して～

　　　　「オオカミを見る目」（新しい国語１　東京書籍）

**２　単元について**

（１）

「オオカミを見る目（高槻成紀）」は、人の考えや行いが置かれた社会の状況によって、変化していくことを、オオカミを例にとって説明している文章である。「ヨーロッパと日本」や「日本の今と昔」といった比較を例に挙げ、主張に説得力を持たせている文章構造や、「問い」とそれに対する「答え」が書かれた段落を明確にするなどの書き方の工夫が随所にある。

また、本単元は、ＡＩによる生成文を比較のための教材として扱う。教育現場において、タブレットを始めとした一人一台端末の普及が進み、家庭でもスマートフォンなどの端末により、誰もが欲しい情報をいつでも手に入れることができる時代になった。中でも、近年話題となっているのは、生成ＡＩである。文章生成や情報収集の手段として大いに力を発揮するものであるが、危険性もある。これからの社会を担っていく生徒には、身近な存在になるであろうＡＩを活用し、それをどのように使いこなし、自らの意見をどう形成するのかを学習していくことが求められる。

生徒は「オオカミを見る目」と「ＡＩによる生成文」とを読み比べていくことで、説明的文章における書き方の工夫に迫ることができる。また、ＡＩによる文章の再生成を活動に取り入れながら、書き手としての自己との対話を図り、能動的に学習に取り組むことができる。本単元を通して、学習指導要領〔思考・判断・表現〕における「Ｃ　読むこと」の指導事項「ア　文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」を中心に、社会で生きて働く読みの力の育成を図りたい。

（２）

生徒たちは「私のタンポポ研究」において、事実と考えとの関係を捉える学習を行っている。また、筆者の主張に説得力を持たせるための情報（データ）の読み取りを通して、確かな情報を根拠に意見を構築していく説明的文章の構成を学習できている。しかし、情報を鵜呑みにしてしまい、その真偽や要否を確かめようとする姿勢はまだできていない。主張を導くための事実としてふさわしい根拠であるかどうかについて検討する視点で読む力が必要になる。

また、ＡＩによる文章生成の体験をした際には、「ＡＩを使うと良い文章が書ける」といった感想が多く見られた。確かに文章生成能力に長けているＡＩであるが、必ずしも完璧ではなく、問題も多く含まれている。文章内の情報を真偽を見極める力や、文章生成の命令を下す自分自身の文章構成の力が必要であることに気づくことが重要である。

（３）

本単元では、「問いと答えの段落関係」「筆者の主張とその根拠となる具体例の整合性」「根拠として提示する情報の吟味」を課題として設定し、ＡＩで生成された文章との比較を通して、文章構成の工夫に気づかせるだけでなく、そこから読み取れる文章の書き手の意図にも迫る指導を行いたい。

初めにＡＩによって生成された文章には、事実と結論しかないものを用意する。そこから、具体例の必要性を見出し、再度生成する。再生成された文章には「オオカミを見る目」とは異なった結論を用意し、結論を導くためにどのような具体例が必要かを考えさせる。また、ＡＩと「オオカミを見る目」を比較したとき「現在のヨーロッパではオオカミは保護されている」という情報の有無が大きな相違点として挙げられる。ここから、情報を選択しながら文章を作成している筆者の意図に気づかせ、生徒自身がどのような命令をＡＩに出せば、より説得力のある文章にすることができるのかを吟味することができる。このように、ＡＩと本文を比較、吟味し、文章を再生成するという活動を繰り返すことで、自然と書き手としての視点でも文章を吟味するようになるのではないかと考える。

また、ＡＩによって生成された情報には、誤った情報も含まれる。そのような情報を鵜呑みにしないためにも、事実を確認しながら生成文を読んでいくよう指導し、主体的に情報に関わる、情報活用能力も養いたい。

**３　単元の目標**

　・ＡＩによる生成文との比較を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係や、比較や分類関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深めることができる。【知識・技能】

　・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、オオカミについての具体例の精選について筆者の意図を考えることができる。【思考・判断・表現】

　・文章構成の工夫の効果について、自分の意見を粘り強く考え、学習課題について沿って考えたことを積極的に語り合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

**４　単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・ＡＩによる生成文との比較を通して、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係や、比較や分類関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深めることができる。（２）ア、イ | ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、オオカミについての具体例の精選について筆者の意図を考えることができる。Ｃ（１）ア  ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。  Ｃ（１）エ | ・文章構成の工夫の効果について、自分の意見を粘り強く考え、学習課題について沿って考えたことを積極的に語り合おうとしている。 |

**５　単元の学習指導計画（全五時間）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 習得・活用 | 目標 | 学習内容・学習活動 |
| １ | 習得 | ・二つの文章を比較し、どちらの論証に納得できるか、意見をもつことができる。 | ・「オオカミを見る目」を通読する。  ・ＡＩが生成した文章を読む。  ・本文とＡＩのどちらの論証に納得できるかを考える。 |
| ２  ・３ | 習得・活用 | ・比較や例示などの筆者の工夫に気付くことができる。  ・相違点の検討を通して、具体例に着目することができる。 | ・前時の意見を全体で共有する。  ・二つの共通点・相違点を見つける。  ・相違点を一つ取り上げ、検討する。（問いと答えの関係について）  ・別の相違点（欧米との比較、日本における変化などの具体例の有無）について、どちらが良いか意見をもつ。 |
| ４ | 習得・活用  (本時) | ・比較を通して、説明的文章における筆者の工夫を評価できる。 | ・前時の意見を全体で共有する。  ・再度生成された文章と比較し、再検討する。  ・具体例の価値や情報選択の意図について検討する。 |
| ５ | 活用 | ・前時までの学習のまとめを通して、説明的文章の構成について振り返る。 | ・筆者の論の展開や工夫について話し合い、最終の意見文を書く。  ・ＡＩの長所・短所についてまとめる。 |

**６　本時の学習指導**

（１）目標

・ＡＩとの比較を通して、文章構成の工夫に気付き、評価することができる。

　　　・文章構成の工夫から筆者の意図を読み取ることができる。

（２）学習指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援 |
| １　共通点と相違点について共有をする。  ２　比較で分かったことを参考に、どちらが良いかを考える。  ３　結論を同じにしてＡＩに再度命令し、作成した文章と本文を比較する。  ４　最終意見を書く。 | 【学習課題】  どちらの論証に納得できるか。  【ＡＩ】  ・欧米では保護されている記述がある。  ・現在の日本ではオオカミに対する偏見があると記述がある。  ・オオカミに関する体長などの情報が詳しく書かれているから、納得できる。  【教科書本文】  ・日本とヨーロッパの具体例があり、想像しやすい  ・時代による比較を通して変化を見ることができる。  ・まとめがあると、筆者の考えがわかる。  【ＡＩ】  ・自然との向き合い方についてまとめられており、こちらの方が訴えとして適切だ  【本文】  ・時代による見方の変化や、国による見方の変化などの具体例が、まとめの主張と合っている。  【ＡＩ】  ・欧米では今は保護されているという情報があるため詳しく書かれており、変化の例が多いほうが納得できると思う。  【本文】  ・ＡＩには絶滅の例がないため、見方による変化の深刻さが伝わりにくい。  ・ヨーロッパの今の例は、オオカミの被害を訴えるためには無いほうが良い。 | ・ＡＩにないものだけでなく、ＡＩにしかないものも考えさせる。  ・主張に説得力をもたせるための具体例として、オオカミの体長などの情報がふさわしいか問いかける。  ・結論の違いに着目させる。  ＡＩ：自然との向き合い方  本文：人間の物を見る目の変化  ・ＡＩに再度命令をする際に、何を指令すればよいかを考えさせる。  ・再生成した文章をGoogle Classroomで生徒と共有する。  ・「ヨーロッパの今」は必要であるかを考えさせる。  ・変更された箇所を確認させ、それが文章においてどう影響するかを考えさせる。  ・再生成で変更された部分にラインを引き、視覚的に分かりやすくする。  ・次時に確認することを伝える。 |

（３）評価

・文章構成の工夫をふまえて、比較した二つの文章を評価することができたか。（観察、ノート）

・文章構成の工夫から筆者の意図を読み取ることができたか。（ノート）